

(第1-1号様式)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 20日

奈良県知事 殿

提出者

住 所 大阪府大阪市中央区神崎町4番12号

氏 名 味覚糖株式会社
代表取締役 山田泰正

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6767-6000

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項及び奈良県産業廃棄物処理計画作成指導要綱第5の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	味覚糖株式会社 奈良工場
事業場の所在地	奈良県 大和郡山市 今国府町137-5
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	製造品等出荷額等：41,571百万円
③ 従業員数	社員：147人、パート：233人、派遣社員：172人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	有機汚泥→再生利用業者に委託し、たい肥として再資源化。 混合物→最終処分業者に委託し、埋立処分。 動植物性残渣→再生利用業者に委託し、たい肥として再資源化。 →中間処理業者に委託し焼却し、焼却灰として再資源化。

(日本産業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
奈良工場長(廃棄物処分統括責任者)			
↓			
インフラライン長(廃棄物管理ライン長)			
↓			
現場管理責任者(産業廃棄物管理責任者、特別管理産業廃棄物管理責任者)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度(5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	排出量	84.4 t	506.68 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	排出量	1303.96 t	t
	(これまでに実施した取組) 各部署、工程で発生量を抑えるよう、個別に管理している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	排出量	80.18 t	481.35 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	排出量	1238.76 t	t
	(今後実施する予定の取組) 工程の改善による産業廃棄物の減少。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、混合物は、有償物を分別し、それぞれ個別に管理。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣、混合物は、有償物を分別し、それぞれ個別に管理。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（ 5年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組) 実施予定なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（ 5年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	全処理委託量	84.82 t	505.68 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	505.68 t
	再生利用業者への処理委託量	67.19 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	全処理委託量	1303.96 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	764.28 t	t
	再生利用業者への処理委託量	461.38 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	78.3 t	t
	(これまでに実施した取組) 再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量を削減する。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1. 有機物汚泥	2. 混合物
	全処理委託量	80.57 t	480.39 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	480.39 t
	再生利用業者への処理委託量	63.83 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	産業廃棄物の種類	3. 動植物性残渣	-
	全処理委託量	1238.75 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	726.06 t	t
	再生利用業者への処理委託量	438.31 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	74.38 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	優良認定処理業者を選定する。 委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。		
※事務処理欄			